

高校生「アフガンボランティア」の結成と活動

荻原 万紀子

経緯

2001年度末、お茶の水女子大学は、奈良女子大・津田塾大・東京女子大・日本女子大とともに五女子大学コンソーシアムを結成し、アフガニスタンの女子教育支援に携わることとなった。2003年2月には指導的女子教育者を迎えて第1回研修プログラムを実施した。それに先立ち、各大学とも研修補助インターンと学生ボランティアを募集したが、お茶の水女子大学では、2002年12月、附属高校にもボランティア生徒を募集した。本校ではボランティアや募金に関する組織はなく、これまでも自治会執行部や授業の一環あるいは延長線上で、時々生徒が募金活動を行う程度であった。そこで、今回は全校生徒によびかけた結果、2年生3名、1年生7名の応募があった。ここから高校生「アフガンボランティア」が発足した。

このように大学からの呼び掛けに応じる形で発足したため、組織としては高校の自治会ではなく、大学における「アフガニスタン支援実施検討WG」（2003年度「アフガニスタン研修実施WG」）に属することになるが、高校では、カブールへの事前視察（2002年8月）に参加してWGメンバーでもある荻原がその指導にあたることになった。2003年度には、高校内の組織として、「高大連携プロジェクト」の一つである「途上国援助」（2004年度には「国際協力」と改称予定）の一環として位置付けた。荻原（国語科）が石出みどり教諭（地歴科）とともに指導を担当している。予算措置を求めて部活動あるいは同好会活動にしようか、という意見も生徒内で出たが、あくまで有志によるボランティア活動することに価値を置く生徒が多く、この形のまま現在に至っている。

始まったばかりのこの活動が、本校にどう根づいていくか、どう発展させていくかの展望を得るためにも、生徒たちがどのような意識で取組み、どのようなことを学んでいるのかを知る必要がある。本稿は、そのための考察である。

主な活動（アンケートには緒方貞子氏講演も入れてあるが、これはボランティア結成以前のことなので、ここでは言及しない）

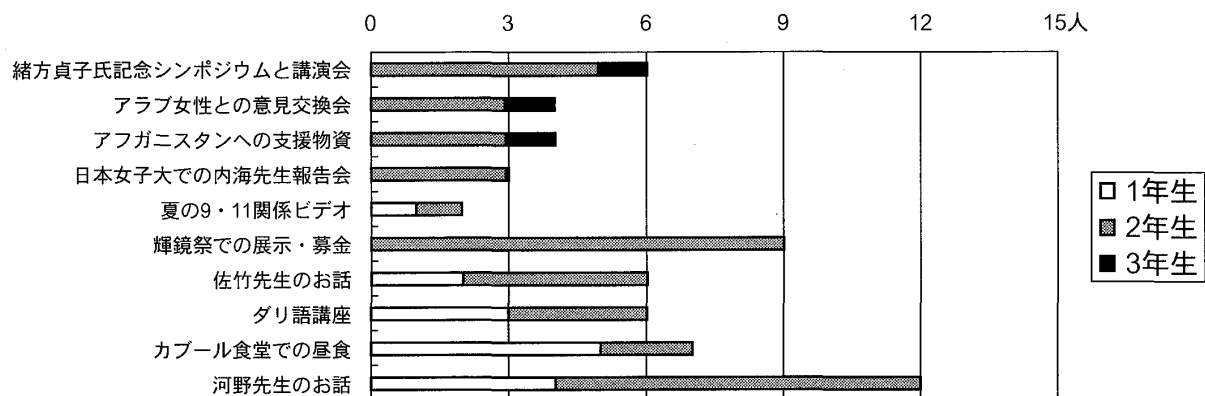
生徒へのアンケート調査（資料1）をもとにこれまでの活動を振り返ってみることにしたい（アンケートの集計とグラフ化は、2年生の代表生徒が自主的にしてくれたものであり、取組み意識の高さを

示している。また、2年生でも今年度の夏から秋にかけて入会した生徒がいるため、それ以前の問いに対しては回答できていないものがある)。

6. それ以外の活動で印象に残っているもの

単位：人

	1年生	2年生	3年生	合計
昨年度				
緒方貞子氏記念シンポジウムと講演会	0	5	1	6
アラブ女性との意見交換会	0	3	1	4
アフガニスタンへの支援物資	0	3	1	4
日本女子大での内海先生報告会	0	3	0	3
今年度				
夏の9・11関係ビデオ	1	1	0	2
輝鏡祭での展示・募金	0	9	0	9
佐竹先生のお話	2	4	0	6
ダリ語講座	3	3	0	6
カブール食堂での昼食	5	2	0	7
河野先生のお話	4	8	0	12
回答者人数	7	12	3	22



・2003年2月 中東青年招聘（外務省主催）女性リーダー（6ヶ国6名）大学訪問に際しての「アラブ諸国女性訪問団との意見交換会」出席。

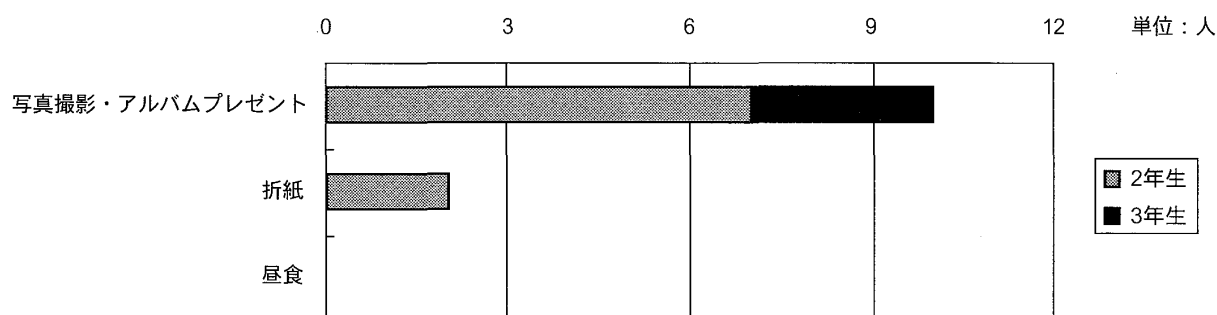
担当の三浦徹文教育学部教授より、2年生特設講座「国際協力とジェンダー」受講者と「アフガンボランティア」に案内があり、10名全員が参加した。イスラム教の女性は不平等を強いられていると思っていたが、そうではないことがわかった等の感想が多く、大変勉強になったようである。

・2003年2月「アフガニスタンの指導的女子教育者のための研修」にボランティアとして参加。

3. (2・3年生のみ) 昨年冬のアフガニスタンからの研修生との交流で行ったことの中でよかったと思うことは何ですか

単位：人

	1年生	2年生	3年生	合計
写真撮影・アルバムプレゼント		7	3	10
折紙		2	0	2
昼食		0	0	0
回答者人数		8	3	11



2日間にわたる本附属校園における研修中のボランティアであるが、すでに春休みに入っている大学生と異なり、1日中授業がある高校生には、実際にはできるお手伝いは殆どない。大学からは、昼食時に生協食堂で食事をする際に購入のお手伝いをする、また、高校放課後以降に必要なが生じた場合、できる範囲でお手伝いをする事が求められた。なお、アフガニスタンからの研修生には英語力を条件としていないので、多くの研修生はダリ語しか話せない(20名の研修生全員がカブールからの方であったため、全員がダリ語を使用している)。

前者については、生徒たちは会合を開き、お昼をご一緒するために、希望者は自分が作った料理やお菓子を持って来てお出しすること、昼食の傍ら、写真を撮って後日(2回目の附属での研修は1週間後だった)差し上げること、昼食後は折り紙を教えてできたものを差し上げること、が決まった。しかし、予想に反して、研修員たちは、昼食持参者が多く、食堂に行く人は少なかったため、生徒も2部隊に分かれることになった。生徒が持参した料理は必ずしも喜んでいただけなかったが、クッキーは好評だったようである。また、折紙は教えようとしてもうまく行かず、ただ折って差し上げるだけということになった。逆に教えていただいた生徒もあり、折紙は研修中に他の場でなされていることもわかった。写真は、デジカメで撮ったものをアルバムにして、折り紙も入れて翌週プレゼントしたところ、これは大変喜ばれ、生徒たちも大満足であった。

後者については、たまたま銀座で開催されていたアフガニスタンの刺繍展に寄ることが決まったため、大学教員の引率下、5名ほどの生徒がお供をした。私は会議のために同行できなかったが、生徒た

ちは楽しかった模様である。

言葉の壁が大きく、意思疎通に苦勞したため、語学の必要性を痛感したようであるが、国際協力に関する意識を高めた生徒も多い。また、多くの生徒がアフガニスタンの女性に対する印象が変わったようで、実際に接してみて初めてわかるということも学んでいる。

2. (2・3年生のみ) 昨年冬のアフガニスタンからの研修生との交流に参加してどのような感想を持ちましたか

単位：人

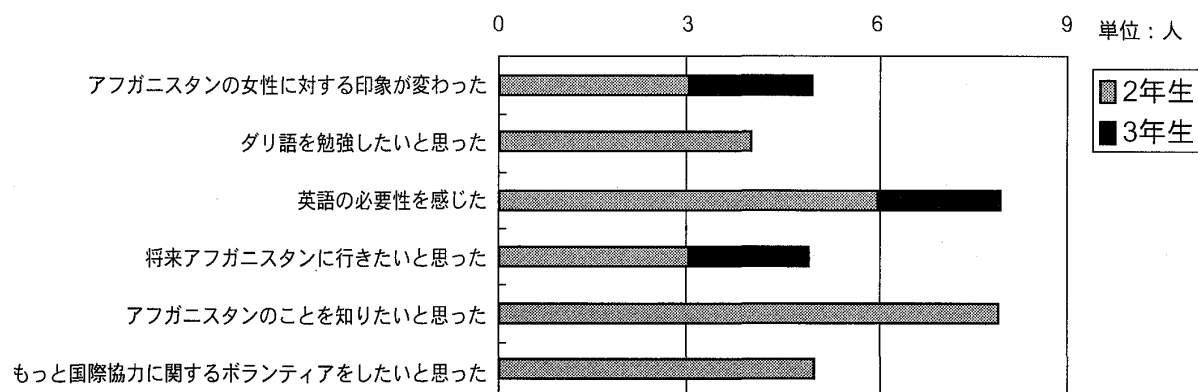
	1年生	2年生	3年生	合計
アフガニスタンの女性に対する印象が変わった		3	2	5
活発・積極的・意思が強い*1		1	1	2
自分勝手*2		1	0	1
普通*3		0	1	1
明るい*4		1	0	1
小計		3	2	
ダリ語を勉強したいと思った		4	0	4
英語の必要性を感じた		6	2	8
将来アフガニスタンに行きたいと思った		3	2	5
アフガニスタンのことを知りたいと思った		8	0	8
もっと国際協力に関するボランティアをしたいと思った		5	0	5
その他		0	0	0
回答者人数		8	3	11

* 1：・活発で積極的。・意思が強くてはっきり意見を言っていた。

* 2：・少し日本人から見ると自分勝手？

* 3：・普通だった←戦争があったばかりだし独裁政権下に長くいたのもっと独特の雰囲気を出しているのではと思っていた。

* 4：・もっと暗いと思っていたけど明るい人が多かった。



なお、この頃から当初希望・登録した生徒以外の1年生（当時）生徒が2名活動に加わっている。

・2003年2月 カブールへの支援物資送付の協力

内海成治大阪大学教授・アフガニスタン教育省教育協力アドバイザー（JICA 専門家）夫人よりカブール教育大学にスポーツ用品を送る、という案内をいただいた。話し合いの結果ご協力することになり、全校生徒に呼びかけた（資料2）。ボランティア生徒たちは、時間帯を割り振って物資の受付と送付に当たった。支援物資送付という仕事は生徒も気に入り、現在でもやりたいという声を聞くが、アフガニスタンへは輸送だけで多額の費用がかかる。何かのついでに送る方法しか取れず（この時は、たまたま船便に空きがあったことによる企画である）、小規模の学校では実現が困難である。

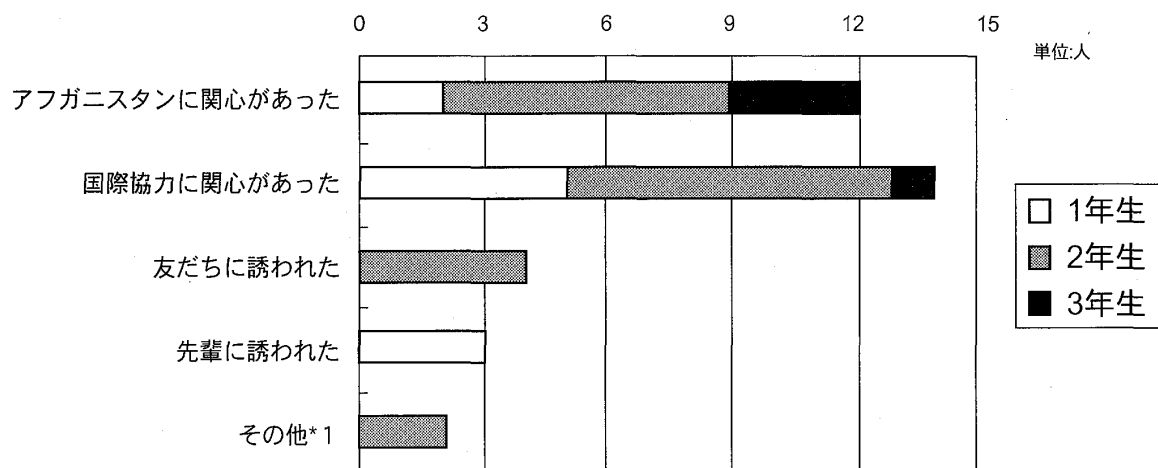
この後は、大学内外で催されるフォーラムの案内に個別に生徒が参加するほかは、特別な活動のチャンスがないまま2002年度は終わり、2年生は事実上「引退」した。もともとアフガニスタン女性研修生へのボランティアとして作られた集団であるため、「仕事」が下りてこないと動く必要もチャンスもない。しかし、せっかくアフガニスタンや国際協力への関心の高い生徒が集まっているので（アンケート1）、定常的な活動ができるようにしたい、また新入生に活動を広げる必要もある、と考えて、2003年5月末の体育祭が終わった後、新2年生9名を集め、如上の私の考えを述べて生徒たちの意向を尋ねた。生徒たちは全員が同じ希望を持ち、早速、なんらかの活動をすることと新入生（2年生でも）勧誘のピラを作ることになった（資料3）。

1. なぜ参加しましたか

単位：人

	1年生	2年生	3年生	合計
アフガニスタンに関心があった	2	7	3	12
報道	1	5	3	9
映画	1	1	0	2
書籍	0	0	1	1
小計	2	6	4	
国際協力に関心があった	5	8	1	14
友だちに誘われた	0	4	0	4
先輩に誘われた	3	0	0	3
その他*1	0	2	0	2
回答者人数	7	12	3	22

*1：去年の銀ブラにつられた。



活動としては、まず、9月末の文化祭への参加とビデオ上映が決まった。内容としては募金活動をしたいという声が圧倒的に多かったが、それだけではなく展示もしたいという生徒もあり（私は内心嬉しく思って聞いていた）、その2本立てで行うことが決まった。募金先は、生徒たちがインターネット等で調べて比較した結果、ユニセフ・ベシャワール会の2組織に絞られ、最後は投票によってベシャワール会に決定した。募金方法は、募金箱を置くだけでなく、私がカブールで撮って来た写真をポストカードにして販売して製作実費を差し引いた分を寄付に充てることとした（これは私が2002年秋・冬に行った方法であるが、生徒たちによい方法と思われたようだ。しかし、後述するようにこのために大変苦勞することになった）。また、7月には石出教諭が卒業生から借りてくれた「セプテンバー11」および私が収録した「NYテロ遺族の心」のビデオを昼休み・放課後に見る、そこで（うまく行けば）新入生の勧誘もできる、という企画をした。

・2003年6～7月 ビデオ鑑賞会

長時間にわたるため数日に分けたものの、昼休みには会合が入ることが多く、参加者も常に少なく、全部を見ることはできなかった。しかし、このビデオを見に来て後日入会した1年生はいるので、目的はそれなりに達成されていると言えなくはない。

・2003年9月 文化祭展示・募金

自分たちで興味のあるテーマを選定・配分し、書籍やインターネットを使って夏休み中に調べ、できれば模造紙に書いてくることとした。この段階で2年生の入会者が3名あった。幅広く活躍している生徒が多いので、9月に入ると、これに回せる時間が殆ど取れないという見込みで、自分たちで夏休み中という方針を出したのだが、2学期に入って仕事が予定通りできている者は11名（12名中1名が留学した）中1名だった。しかし、文化祭当日朝に模造紙に書いている生徒も含めて、全員が分担箇所をまとめて展示をすることができた。写真家今岡昌子氏のご好意により、写真を数葉お借りすることができたので、地味な展示に色取りを添えられた。また、ポストカードは、売れ残ると困るので確実に売れる枚数にしよう、という考えで60枚×5種類にしたのだが、はたして少なからぬ売れ残りを出すことに

なった。先生たちの協力をあおいでもなお売れ残った分については、11月のダンスコンクールでも販売をし、最後の十数枚は自分たちで引き取り（自分たちで極力努力をさせるべく、購入に応じなかった私も、この段階でようやく引き取りに協力した）、完売することができた。募金と合わせて11,473円をペシャワール会に送った（資料4）。展示ともども生徒たちにとっても貴重な経験であったようである（前掲アンケート6）。

・2003年10月 1年生勧誘

この間にまた1名2年生の入会があったが、1年生の入会者は1人もなかったため（顧問の石出教諭・萩原とも1年生の授業を持っていないことも関係したかもしれない）、さすがに対策を講じ、2年生が終礼時に1年生ホームルームに出向いて勧誘することになった。会議と担任の許可を得て実施した結果、7名の1年生入会者が現れた（このまま現在に至っている。したがって、現在メンバーは1年生7名、2年生12名である）。

・2003年10～12月 本学「ダリ語講座」への参加

本学への国費留学生として来日されているワヒダさんにダリ語を教えていただく、という講座が月曜日の昼休みに設定され、高校生にもお誘いがあった（高校生の参加しやすい時間帯を設定していただいた）。計4回の講座で、全回出席できた生徒は3名であり、現実には習得し得たものは少ないが、学習意欲を喚起させられた者は多い。

・2003年12月 佐竹元吉教授のお話

2年生生徒がJICAの「国際協力」（2003.8）から、本学の佐竹元吉生活環境センター教授が、ミャンマーにおけるケシの撲滅活動で成果を上げられている記事を見つけてきた。記事をプリント配布したところ、関心を持った生徒が多かった。今年着任された方で面識はなかったが、お話をうかがえるかとお願いをしたところ、ご快諾を得ることができたので、研究室にお邪魔した。プロジェクト自体もすばらしかったが、国際協力や言語の壁を乗り越える努力についてのお話に生徒たちは感銘を受けていた（資料5 お礼に寄せ書きした色紙のコピー）。この時も、昼休みの会合と重なって参加できなかった生徒が少なからずいたのが残念である。

・2003年12月 カブール食堂での昼食

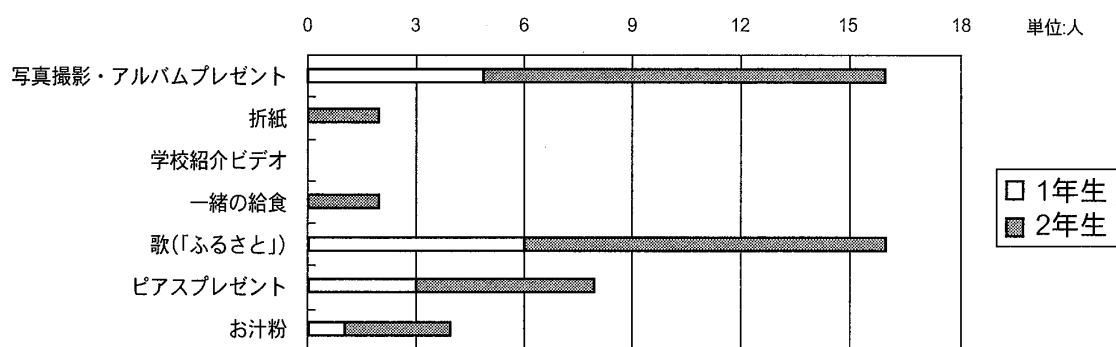
これも2年生生徒がインターネットで見つけてきた。カブールから来日された方が開かれたものであるということで、ぜひ体験しようということになり、なるべく多くの生徒が参加できる、試験後の授業のない日に設定したのだが、寝坊をして来られなくなった生徒もあった。しかし、珍しくしかも楽しい経験で、ことに活動を始めたばかりの1年生に新鮮であったようである（前掲アンケート6）。

・2004年1月「アフガニスタンの指導的女子教育者のための研修」(第2期)にボランティアとして参加。

5. (1・2年生のみ) 今冬のアフガニスタンからの研修生との交流で行ったことの中でよかったと思うことは何ですか

単位：人

	1年生	2年生	3年生	合計
写真撮影・アルバムプレゼント	5	11		16
折紙	0	2		2
学校紹介ビデオ	0	0		0
一緒にの昼食	0	2		2
歌(「ふるさと」)	6	10		16
ピアスプレゼント	3	5		8
お汁粉	1	3		4
回答者人数	7	12		19



今年の参加者は16名、カブール以外の方も若干含まれているが、いずれもダリ語使用者である。1月21・28日に、本附属で研修をされるということで、両日の昼食接待を行うことになった。2年生は、昨年の反省を踏まえて、どんなことをするか、何日にもわたって会合を開き、1年生ともども議論をして方針を決めていった。食堂に行かれる方は殆どなさそうだ、写真は今年もする、他にはいくつか用意しておいて関心を持っていただけるものをする、グループ(籤引きで4つに分けた)単位で行動する、が基本方針となった。10を超える案の中から、・最初に歓迎の歌・折紙(ただし受け入れられなかったらすぐやめる)・コマ回し(同前)・和紙でピアスを作って(できれば作っていただき)翌週にプレゼント を実行しつつ学校紹介ビデオを回しておく、ということに決まったほか、21日の後、お菓子のようなのは評判がよさそうなので、作ってさしあげるとよいのではないかと私が提案し、これも話し合いの結果、28日には、1年生が家庭科で成功したばかりのお汁粉を作るようになった(家庭科田中京子教諭の指導・協力を得た)。

歌(投票の結果「ふるさと」に決まった)は3部合唱として生徒たちは朝や昼休みに練習していたが、21日に伴奏生徒が発熱して欠席、28日に延期した。この合唱はたいそう喜んでいただけたようであ

る。折紙もそれなりに交流の糸口になった。ピას作りは、殆どのケースで生徒だけが作っていたが、差し上げた時には喜んでいただけた。ところが、お汁粉に関しては、「生徒がお汁粉を作ってお出しする」というアナウンスをしておいたところ、「高校生が昼食の準備をしている」という内容で伝わってしまい、多くの研修生が昼食を持参しない、しかし慣れないお汁粉は昼食にはならない、で、急遽生協に昼食を買いに行くことになってしまわれた。2年生代表生徒が自身ともう一つのグループを連れてそのお手伝いに走ってくれた。通訳さんたちも心配してくださり、昼食の後助けに来てくださったが、その時は買物が無事すんだ後であった（残ったお汁粉は生徒が食べた。日本人生徒にとっては十二分においしいお汁粉だった）。そのようなハプニングはあったが、お別れの時に研修生から「ありがとう。あなたたちのことは帰国してからでも決して忘れません」と言っていたことが、何よりの収穫だった（資料6 今年度自治会誌に2年生が書いた原稿）。

この間、財政的なバックアップのない活動にさすがに無理を感じてきた私は、「お茶の水学術事業会」（主に本学教職員・卒業生等の寄付から成る非営利団体。社会教育の推進、男女協働参画社会の形成、子どもの健全育成を推進することを目的とした助成事業を行っている）に打診し、審査を伴う大掛かりな事業ではなく、年間2万円以内の援助をいただける活動としての認可を得た。その関係もあり、「アフガンボランティア」の活動も、思いつきではなく、できれば年間計画も立て、より実効あるものにしていきたいと考えて、生徒に諮った。生徒は私の希望に沿って、活動方針を議論した結果、アフガンやボランティアに関する勉強を継続的にしていく、その成果を文化祭で発表する、募金等のボランティア活動も模索する、できればチャリティコンサートのようなものを実行する、という方針を立てた。これは、たまたま楽器が得意な生徒が多いことから生まれた発想で、大学のアフガン・フォーラムの折にでも募金活動の一助にしたいと生徒たちは考えている。2年生も1年生に主導を譲ったが、3年生になってからもできる範囲で活動が続けることに合意した。

・2004年2月 河野貴代美教授のお話

本学ジェンダー研究センターにやはり今年度着任された河野貴代美教授は、1学期に「国際協力とジェンダー」でお話をしてくださり、生徒たちに大変好評であった。その折、アフガンボランティア生徒にもお話をしてくださるようお願いをしておいたのだが、他のことを消化していく中で延び延びになっていたのを、今年度の研修が終わったチャンスに実現化した。今回は全員に近い生徒が集まることのできた（行事の少ない3学期は生徒の会合も大幅に減っている）。河野教授は、心理カウンセラーの専門家として研修生の指導をされ、その際の体験と感じられたことを話してくださり、これは多くの生徒にとって衝撃的なものだった。心理学ことにPTSDを勉強したいという生徒が続出した（河野教授が帰られた後、理系の2年生が「私、文転して心理学をやる！」と叫んだ。数日後にさすがに熱は冷めていたが、それほどに衝撃が強かった）（資料7）。

来年度に向けて

河野教授のお話の後、今後の勉強の仕方について話し合い、私が提案したテーマ毎に班をつくる、という方法で、当面、自分の興味があるテーマにもとづいて班を作り（1名だけの班があってもよい）、その中で分担する・しない等も決め、とりあえず6月をメドにして勉強をしてその成果を報告・発表する、ということになった。PTSDの希望が最も多いが、ほかにも歴史・社会・文化・語り語・各国の支援状況等の項目があり、現在、生徒は各自勉強に邁進しているはずで、発表を楽しみにしている。

また、4月7日には、1年生が提案した映画「アフガン零年」を見に行く予定である。事前にNHKが昨年放送した「マリナ」のビデオ上映会もしており、生徒たちはなんらかの目的と問題意識をもって映画に臨むことになっている（本当は事前にその話し合いをしたかったのだが、時間が取れなかったので、事後に意見を交換することになっている）。また、チャリティコンサートは、3月に「開発途上国女子教育協力センター女子教育協力研究実践部門・アフガニスタン研修実施WG拡大会」で提案して歓迎された。新3年生の受験勉強の関係で1学期中に開催する予定である。

「アフガンボランティア」の活動のあり方について

突然生まれたボランティア組織の運営は、私自身知識もなく不案内なため、多分に場当たり的であった。なんとか発展的に活動を続けてこられたのは、何よりも生徒たちことに現2年生の意欲・熱意に負っている面が大きい。生徒の多くは、将来的にもボランティア活動としてかかわっていきたいと考えている者が多く（アンケート10）、高校時代になるべく多様な経験を積ませたいと考えている。

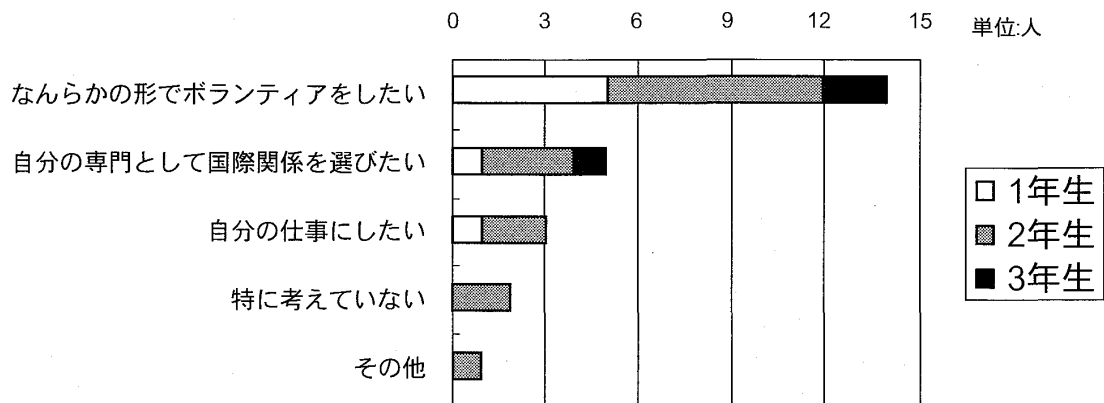
10. あなたは、将来国際協力にどのように関わっていきたいと思いますか

単位：人

	1年生	2年生	3年生	合計
なんらかの形でボランティアをしたい	5	7	2	14
自分の専門として国際関係を選びたい	1	3	1	5
自分の仕事にしたい	1	2	0	3
特に考えていない*1	0	2	0	2
その他	0	1	0	1
老後の活動にしたい*2	0	1	0	
回答者人数	7	12	3	22

*1：趣味とは違うけど、そういうかんで勉強していったその過程でボランティアだっけに参加することはあると思う。

*2：老後、これに関われるような活動がしたいです。



活動の内容については、生徒たちの考えも学年差も含めてさまざまであるが、だからこそ、議論をしたり一緒に活動をしたりすることによって得られるものも多いだろう（資料8 アンケート7・8）。生徒たちはアフガン研修生ともっと交流を持つことを希望しているが、授業時間帯との兼ね合いがあり難しい。だが、研修生も授業見学や参加を希望されている様子で、一緒に参加していただけるような授業を持てるような提案をしていきたい。また、アフガニスタン高校生を訪日・留学も検討されている模様であり、それは、ボランティア以外の生徒たちにも大きな意味を持つと思われるので、ぜひ実現してほしいものである。

他校生徒との交流やアフガニスタン以外に対象を広げることを望んでいる生徒もあり、できる範囲で活動を広げていくことも望まれる。規模の小さい学校と経験のない顧問教師なので、収集できない事態になることは避けたいが、中東・ミャンマー等、何かのチャンスや大学教員の専門テーマ等での広がりを持たせていくことはできるのではないかと考えている。また、アフガンの人たちとのかかわりは、現地高校生とのメール交換を含めていくつか方法が考えられるが、問題点も予想され、目下、生徒は来日中のアフガニスタン人との接触を考えていくことを希望している。意欲を測りつつ必要に応じて手助けをしていくつもりである。

また、何かにつけて声をかけてくださったりご指導をしてくださったりする藤枝修子前高校長・現アフガニスタン特認教授をはじめとする大学関係者のお力添えもありがたいことである。最初に述べたように、本活動は高大連携プロジェクトの一環でもあり、授業以外の高大連携のあり方の一つのスタイルを作ることも可能であろう（資料8 アンケート9）。生徒たちも、大学主催の講座・講演会や先生方のお話から学ぶことが多く、高校だけの活動では求められない成果を得ている。大学側にも高校生の関心や積極的な態度は好感をもって受けとめられ、今後の活動に期待も寄せられている。

しかし、何より大切なのは生徒たちの自発的な意志であり、友人や先・後輩との意見交換によって形あるものになっている道程であろう。今後も話し合いの場をなるべく多く持つようにし、私自身は提案や指針を押しつけにならない配慮と工夫を続けていきたい。

アフガンボランティアアンケート

1 なぜ参加しましたか

- ア アフガニスタンに関心があった (授業 (何の?)・報道・映画・その他 ())
- イ 国際協力に関心があった
- ウ 友だちに誘われた
- エ 先輩に誘われた
- オ その他 ()

2 (2・3年生のみ) 昨年度のアフガニスタンからの研修生との交流に参加してどのような感想を持ちましたか。

- ア アフガニスタンの女性に対する印象が変わった (具体的に)
- イ ダリ語を勉強したいと思った
- ウ 英語の必要性を感じた
- エ 将来アフガニスタンに行きたいと思った
- オ アフガニスタンのことを知りたいと思った
- カ もっと国際協力に関するボランティアをしたいと思った
- キ その他 (具体的に)

3 (2・3年生のみ) 昨年度のアフガニスタンからの研修生との交流で行ったことの中でよかったと思うことは何ですか。

- ア 写真撮影・アルバムプレゼント イ 折紙 ウ 星食

4 (1・2年生のみ) 今冬のアフガニスタンからの研修生との交流に参加してどのような感想を持ちましたか。

- ア アフガニスタンの女性に対する印象が変わった (具体的に)
- イ ダリ語を勉強したいと思った
- ウ 英語の必要性を感じた
- エ 将来アフガニスタンに行きたいと思った
- オ もっと国際協力に関するボランティアをしたいと思った
- カ (昨年参加者のみ) 去年と比べて ()
- キ その他 (具体的に)

1

5 (1・2年生のみ) 今冬のアフガニスタンからの研修生との交流で行ったことの中でよかったと思うことは何ですか。

- ア 写真撮影・アルバムプレゼント イ 折紙 ウ 学校紹介ビデオ エ 一緒にの星食
- オ 歌 カ ビアスプレゼント キ お汁粉

6 それ以外の活動で印象に残っているのは何ですか。
(昨年度)

- ア 緒方貞子氏記念シンポジウムと講演会 イ アラブ女性との意見交換会
- ウ アフガニスタンへの支援物資 エ 日本女子大での内海先生報告会
- (今年度)

- オ 夏の9・11 関係ビデオ カ 輝鏡祭での展示・募金 キ 佐竹先生のお話
- ク ダリ語講座 ケ カブール食堂での星食 コ 河野先生のお話

7 一連の活動で得られたことを書いてください。

8 今後アフガンボランティアの活動はどうあるのがよいと思いますか。

9 アフガニスタン支援に関して、大学・高校にどのようなことを望みますか。

10 あなたは、将来国際協力にどのように関わっていききたいと思いますか。

- ア なんらかの形でボランティアをしたい
- イ 自分の専門として国際関係を選びたい
- ウ 自分の仕事にしたい
- エ 特に考えていない
- オ その他 ()

ご協力ありがとうございました

アフガニスタン

教育大学支援のお願い



この度、アフガニスタンのカブール教育大学に、スポーツ用品を送ろうというNGOからお茶高にも案内がありました。私たちボランティアは、学校としてこれに協力したいと考えています。

つきましては、下記の通り品物の寄付をお願いしたいと思います。

もちろん中古の品物で結構ですが、衣類や靴は洗った後、持ってきて下さい。尚、アフガニスタンの女性は、宗教上素肌をたさないため、女性物の衣類は、短パンやミニスカートは避けて下さい。急なことです。協力をお願いします。

記

<日時> 2/17 12:40 ~ 13:00 , 15:20 ~ 16:00
2/18 12:40 ~ 13:00 , 15:20 ~ 16:00

<場所> 体育館前昇降口(体育教官室前)

<種目> 卓球、バドミントン、テニス、バスケットボール、サッカー
ハンドボール、バレーボール

<品目> ラケット、ボール等、ユニホーム、シューズ、ジャージ
トレーナー、Tシャツ、靴下、空気入れ
その他競技に必要な小物類

不明な点は、お近くのボランティア生徒、または萩原先生まで
お願いします。

BY、お茶高

アフガニスタンボランティア同
代表 1R 大住、眼部

お国一ムだより

☆ vol.1 ☆

～アフガニスタン隊員の募集のお知らせ～

昨年度2月～3月の約1ヶ月間、五女子大学コンソーシアムの一環としてアフガニスタンの女性教育者が来日した際、私達高校生も何かできることはないかと思ったり、「アフガンボランティア」として活動を始めた。

今現在、2年生9名での活動ですが、今回1・2年生にも参加の募集したいと思います。世界の動き・国際協力等に興味のある方もない方も是非入ってください。

☆ 昨年行ったこと ☆

- ・ スポーツ用品の寄付
皆さんの御協力でたくさんの物資が集まりました。
- ・ アフガニスタン女性との交流
タリ語を学び、アフガン教育の指導者の方々のお話を聞き、語り合い、折り紙・おせりをして、有意義に過ごした数日間。異文化を肌で感じとれた貴重な体験でした。

☆ 映像上映会のお知らせ ☆

- ・ 6/30(月)～7/4(金)の昼休み 11:40～ 社会科室にて
『セブテンバー 11』 “それぞれの国の文化・歴史を背景に”
- ・ 7/4(金)の放課後 14:40～15:40
『NYテロ遺族の心』 — ニューヨークへアフガン—

興味を持たれた方は、2U山本久美子 or 2K大嶋はなみ or 2R綱島小也 まで。

☆ 今年行うこと ☆

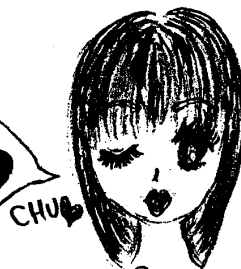
- ・ 文化祭での活動
今年度の文化祭で、展示や募金活動、ポストカード売り上げ金の寄付などを行いたいと思います。アフガニスタン隊員でない方も、もちろん大歓迎です。どんどんドンドン御参加下さい!! (優先順位は低くても構いません。)

- ・ アフガニスタン女性との交流 (パート2)
今年もアフガニスタン女性との交流を予定しています。具体的に何をやるかはまた検討中です。去年よりもより充実した内容にしていきますよ!!

担当の先生は、萩原先生と、石出先生です。 ☆

アフガンボランティア

募金活動の報告



H15, 12, 3

アフガン

わたしたちアフガンボランティアは女性教員

の海外支援活動のお手伝いを目的に発足

した団体です。新たに一年生の加入もあり、

様々な言式みを続けています。

その一環として文化祭でアフガンについての

展示、募金を行いました。

さて、文化祭でのポストカード販売と募金、ダン

スコンクールでの追加販売で皆様から集まった

お金が**11473円**になりました。これは本来の目

的通りアフガン支援団体へジャワール会に責任

をもって寄付しました。御協力くださった皆様、

ありがとうございました。

アフガンボランティア一同

世界にはいろいろな問題があります。それは生活や活動に生じていることと、忘れてはならない問題の二つであり、覚えていかなければならぬものだと思います。

また、言葉が通じないということがあります。それが印象に残りました。アガカニは、大抵の交流が、先生に教わったことと生かしていったと思うのです。

金沢大学 保健科 佐藤 俊

花日は、とても重宝をお話、有り難うござい
ました。其の話しがよい、たくさん学ぶの
に思っています。今までは、国際協力は、
望む壁が、様々な障害があつた、難いもの
と思つて、いざいざ、NPOは結構、タダに
つくやることを知り、ふふ、うれしました。
このお話しで何より、言葉がわかりなかつても合はせるとい
ふのが、行儀的でした。私も、種々返答に、活
動したいと思ひます。アフリカ(2)に
様々な国と交流したいです。 今年、海軍大佐、金子

1年萌組 須藤千紘

一生懸命、ダリ言葉を更迭して
 言葉で生アプガニス・タンの方と
 交遊を察められ、二、三集晴ら
 しい心を思ひます。
 1集、2集、3集、4集、5集、6集、7集、8集、9集、10集、11集、12集、13集、14集、15集、16集、17集、18集、19集、20集、21集、22集、23集、24集、25集、26集、27集、28集、29集、30集、31集、32集、33集、34集、35集、36集、37集、38集、39集、40集、41集、42集、43集、44集、45集、46集、47集、48集、49集、50集、51集、52集、53集、54集、55集、56集、57集、58集、59集、60集、61集、62集、63集、64集、65集、66集、67集、68集、69集、70集、71集、72集、73集、74集、75集、76集、77集、78集、79集、80集、81集、82集、83集、84集、85集、86集、87集、88集、89集、90集、91集、92集、93集、94集、95集、96集、97集、98集、99集、100集、101集、102集、103集、104集、105集、106集、107集、108集、109集、110集、111集、112集、113集、114集、115集、116集、117集、118集、119集、120集、121集、122集、123集、124集、125集、126集、127集、128集、129集、130集、131集、132集、133集、134集、135集、136集、137集、138集、139集、140集、141集、142集、143集、144集、145集、146集、147集、148集、149集、150集、151集、152集、153集、154集、155集、156集、157集、158集、159集、160集、161集、162集、163集、164集、165集、166集、167集、168集、169集、170集、171集、172集、173集、174集、175集、176集、177集、178集、179集、180集、181集、182集、183集、184集、185集、186集、187集、188集、189集、190集、191集、192集、193集、194集、195集、196集、197集、198集、199集、200集、201集、202集、203集、204集、205集、206集、207集、208集、209集、210集、211集、212集、213集、214集、215集、216集、217集、218集、219集、220集、221集、222集、223集、224集、225集、226集、227集、228集、229集、230集、231集、232集、233集、234集、235集、236集、237集、238集、239集、240集、241集、242集、243集、244集、245集、246集、247集、248集、249集、250集、251集、252集、253集、254集、255集、256集、257集、258集、259集、260集、261集、262集、263集、264集、265集、266集、267集、268集、269集、270集、271集、272集、273集、274集、275集、276集、277集、278集、279集、280集、281集、282集、283集、284集、285集、286集、287集、288集、289集、290集、291集、292集、293集、294集、295集、296集、297集、298集、299集、300集、301集、302集、303集、304集、305集、306集、307集、308集、309集、310集、311集、312集、313集、314集、315集、316集、317集、318集、319集、320集、321集、322集、323集、324集、325集、326集、327集、328集、329集、330集、331集、332集、333集、334集、335集、336集、337集、338集、339集、340集、341集、342集、343集、344集、345集、346集、347集、348集、349集、350集、351集、352集、353集、354集、355集、356集、357集、358集、359集、360集、361集、362集、363集、364集、365集、366集、367集、368集、369集、370集、371集、372集、373集、374集、375集、376集、377集、378集、379集、380集、381集、382集、383集、384集、385集、386集、387集、388集、389集、390集、391集、392集、393集、394集、395集、396集、397集、398集、399集、400集、401集、402集、403集、404集、405集、406集、407集、408集、409集、410集、411集、412集、413集、414集、415集、416集、417集、418集、419集、420集、421集、422集、423集、424集、425集、426集、427集、428集、429集、430集、431集、432集、433集、434集、435集、436集、437集、438集、439集、440集、441集、442集、443集、444集、445集、446集、447集、448集、449集、450集、451集、452集、453集、454集、455集、456集、457集、458集、459集、460集、461集、462集、463集、464集、465集、466集、467集、468集、469集、470集、471集、472集、473集、474集、475集、476集、477集、478集、479集、480集、481集、482集、483集、484集、485集、486集、487集、488集、489集、490集、491集、492集、493集、494集、495集、496集、497集、498集、499集、500集、501集、502集、503集、504集、505集、506集、507集、508集、509集、510集、511集、512集、513集、514集、515集、516集、517集、518集、519集、520集、521集、522集、523集、524集、525集、526集、527集、528集、529集、530集、531集、532集、533集、534集、535集、536集、537集、538集、539集、540集、541集、542集、543集、544集、545集、546集、547集、548集、549集、550集、551集、552集、553集、554集、555集、556集、557集、558集、559集、560集、561集、562集、563集、564集、565集、566集、567集、568集、569集、570集、571集、572集、573集、574集、575集、576集、577集、578集、579集、580集、581集、582集、583集、584集、585集、586集、587集、588集、589集、590集、591集、592集、593集、594集、595集、596集、597集、598集、599集、600集、601集、602集、603集、604集、605集、606集、607集、608集、609集、610集、611集、612集、613集、614集、615集、616集、617集、618集、619集、620集、621集、622集、623集、624集、625集、626集、627集、628集、629集、630集、631集、632集、633集、634集、635集、636集、637集、638集、639集、640集、641集、642集、643集、644集、645集、646集、647集、648集、649集、650集、651集、652集、653集、654集、655集、656集、657集、658集、659集、660集、661集、662集、663集、664集、665集、666集、667集、668集、669集、670集、671集、672集、673集、674集、675集、676集、677集、678集、679集、680集、681集、682集、683集、684集、685集、686集、687集、688集、689集、690集、691集、692集、693集、694集、695集、696集、697集、698集、699集、700集、701集、702集、703集、704集、705集、706集、707集、708集、709集、710集、711集、712集、713集、714集、715集、716集、717集、718集、719集、720集、721集、722集、723集、724集、725集、726集、727集、728集、729集、730集、731集、732集、733集、734集、735集、736集、737集、738集、739集、740集、741集、742集、743集、744集、745集、746集、747集、748集、749集、750集、751集、752集、753集、754集、755集、756集、757集、758集、759集、760集、761集、762集、763集、764集、765集、766集、767集、768集、769集、770集、771集、772集、773集、774集、775集、776集、777集、778集、779集、780集、781集、782集、783集、784集、785集、786集、787集、788集、789集、790集、791集、792集、793集、794集、795集、796集、797集、798集、799集、800集、801集、802集、803集、804集、805集、806集、807集、808集、809集、810集、811集、812集、813集、814集、815集、816集、817集、818集、819集、820集、821集、822集、823集、824集、825集、826集、827集、828集、

先日、私道のためになる貴重
なかなもあつて下さり、本堂にあり
がたいお話をいたしました。先生の話し
はほんとにもおもしろく、大変有益な
時間をお過ごしのことばでした。
先生は、何事にも興味を持ち、
積極的に行動されていくので、
いいと思いました。その行動力と好
奇心がNPO等の様々な活動の
原動力になっているのだなあと思ひ
ました。いつか、先生のお話
をもっと聞きたいです。今後は他
の園にとついてもお話をうかがい
たいです。

先日はお礼のしやなかちのたぬに
時間空いてくたさうありがたう
づい、ました。難いお話をと思
つていたけれど、実際はとも
面白、興味をもて聞こうと
てました。私は今までの外人の
方と交流を深めるためには、語
をまゝと学んでゆくではないと
管理上を思、てくたさう話す
言葉を選んでくたさうと思
つた。今度そのおひげ会が
あったら自分から話してみたいと思
います。隙れた時間、な
ど、のたで、またお話を伺うこと
ができれば幸いです。

二葉節組 清水清子

よ話が面白いのでは、とバツにされたので
すが、丁寧にわかりやすく解説して下さり
大変勉強になりました。ありがたうございました。
また機会があればぜひお話を伺いた
いです。

[illegible]

大学が行う「アフガニスタンの指導的子女教育者のための研修プログラム」へのボランティア活動のため、二〇〇二年に結成された我々「アフガンボランティア」。これは、その知られざる草の根活動の記録である。(一部誇張表現あり)

始まりは、一枚の紙だった。

「アフガニスタン支援の高校生ボランティア募集中」

これを見て集まったのはわずか十人。当時二年生の安孫子由梨、小松崎未佳、中村市子、そして一年生の石川裕子、大嶋はなみ、大住典子、大村玲奈、服部真季、本間奈菜、山本久美子である。

当時アフガニスタンは、世界の注目の的だった。皆、意欲と正義感に燃え、これからの活動に大きな夢を抱いていた。

しかし、待っていたのは大学が主催するシンポジウムの渦。それは有意義であり、後々になってその貴重な体験のありがたみを痛感したが、当時の私達が想像していた活動とは似ても似つかなかった。一同、うなだれた。

ところが、メンバーが十二人に増えた一月、ついに活躍の場が訪れた。アフガニスタンの女性教員との交流にお声がかかったのである。皆、力を入れて事前にも何回も会合を開き、何をするか話し合い、万全の体制で臨んだ。

初めての大仕事だったが……、失敗だった……。

皆の前に、言葉と異文化の壁が大きく立ちわだかまったのである。

時は流れ、二〇〇三年。今年度は、昨年度よりもよい活動をしようと皆で頭をしぼり、輝鏡祭で、アフガニスタンについての展示と、ポストカードの販売、募金活動を行い、収益の一〇四七三円をペシャワール会に寄付した(御協力くださった方、どうもありがとうございました)。

秋には一年生の教室を回って勧誘活動を行い、これで総勢二十名になった。顧問は、アフガニスタンに行かれたことのある国語科の荻原万紀子教諭と、毎回社会科室を会合場所に貸してくださる石出みどり教諭。そして、隊長(アフガンボランティアは別名「あふがにい隊員」である)：山本、会計：清水、書記：大村・綱島となった。

組織が大きくなってからでも、様々な活動をした(詳しい活動内容は「アフガンボランティアの歩み」をご参照ください)。

そして、とうとう昨年度の反省を活かすチャンスが訪れた。また、アフガニスタンの女性教員との交流ができることになったのである。皆の脳裏に、去年

の惨状がよぎった。私たちはボランティアであり、メインは自分たちではないと言いつつも、もう同じ失敗は繰り返すまいと、会合に会合を重ねた。そして、当日。

……うまくいった……。

もちろん、ハプニングや反省点は多かった。振る舞ったおしるこは受け入れてもらえず、歌った『ふさふさ』の歌詞「うさぎおいしかのやま」は、通訳さんに「ウサギが美味しい」と訳されたらしい等々、挙げればきりが無い。しかし、皆、達成感で一杯だった。

そして私達は、打上げ兼反省会で、荻原先生からいただいた群林堂の豆大福と、今回交流したアフガニスタンの方からいただいた、この言葉をかみしめたのである。

「あなたたちのことは、絶対に忘れない。」

今後の活動にもご期待ください。

☆アフガンボランティアの歩み☆

2002年2学期 アフガンボランティア結成。

2003年1月 「アラブ諸国女性訪問団との意見交換会」に出席。

アフガニスタンへスポーツ用品を送る。

「アフガニスタンの指導的子女教育者のための研修」でアフガニスタンの女性と交流。

6月 「セブテンバー」など、ビデオ鑑賞会。

9月 文化祭で「サラーム・アフガニスタン」として展示・ポストカード販売・募金活動を行う。

月 お茶の水女子大学教授、佐竹元吉先生のお話を伺う。

月 お茶の水女子大学主催の「ダリ語講座」に通う。

月 ダンスコンクールの際、ポストカード販売を行う。

月 アフガン料理を食べに「神田カブール食堂」へ行く。

2004年1月 アフガニスタンの女性と交流。

お茶の水芸術事業会からの活動支援が決定。

☆現役活動メンバー☆

顧問：荻原万紀子先生、石出みどり先生

二年生：秋山友紀、石川裕子、大嶋はなみ、大村玲奈、加藤恵里子、重田由比、

清水淳子、綱島小也香、服部真季、本間奈菜、

三坂歩、山本久美子

一年生：大森明子、金子香、須藤千紘、中村仁美、中村遼、永江世佳、堀口真里

* 「あふがにい隊員」募集中。関心のある方は「あふがにい隊員」まで。

by 大村玲奈、綱島小也香、山本久美子

7. 一連の活動で得られたことを書いてください

< 1 年生 >

- ・国際協力の苦勞への理解。
- ・異文化の人とふれあうことの難しさ。言葉は通じなくても、わかりあえることの楽しさ。
- ・ボランティアは自分の与えたいものを与えるというものでないし、相手の願望を叶えるものでもなく、あくまで「手伝い」をしなければならない。何より難しいのは「今実際何ができるか」だと思いました。
- ・アフガニスタンの現状と課題を知ることができました。
- ・視野が広がった気がする。自分に対する反省点が見つかった。(もっと積極的になる、英語をもっと勉強するなど)
- ・国際交流する難しさ(文化の違いによる互いのギャップ)。
- ・交流やダリ語講座によって改めて文化の違いを感じたが、それを知ることもボランティアの第一歩かな、と思った。

< 2 年生 >

- ・イラクとイランとアフガニスタンの区別がつかなくても何とも思わなかった無知な自分を恥じて、今更ながら勉強し直している。国際協力にも興味を抱いたことなどなかったがそういった方面への関心を持てるようになった。大きな進歩だと思う。
- ・ダリ語の知識(?)
- ・文化祭の時から参加で、まだ短い期間しか活動していないけれど、今までよりも国際協力に関心が持てるようになった。
- ・アフガンに興味を持てた。ただ募金などの活動をするだけでなく、相手を知ることもボランティアとして大切なことだとわかった。
- ・何かに興味、関心を持つことの大切さを学ぶことができました。
- ・異文化を持つ人びとと接するときは、言葉は通じなくてもとにかくアタックしていくことが大切だと思った。相手に共感しようとか、してもらおうと思うのではなく、理解しようとするのも大切だと思う。
- ・お茶高生とのつながり(人とのつながり)。アフガンへの興味関心。
- ・先生方の講演。特に緒方先生、内海先生の話は体験談であったため現実味がありとても面白く興味のそそられるものでした。講演を聞き表面的なことを知りましたが、実際に研修生との交流会を持つと、言葉・文化の違いが壁となり思うような交流はできませんでした。が、その後の河野先生のお話から「壁」をなくすことの大切さを学び、とてもタメになりました。
- ・国際協力についてより興味を持つようになった。
- ・単に報道などで知っていた「援助の必要な国」が交流会やアフガンから帰ってこられた先生方のお話でもっと実感で、「血の通った同じ人間が、援助を必要としている国」ととらえることができた。
- ・自分とちがう文化を持つ人を身近に感じるできるようになったこと。

< 3 年生 >

- ・国際協力は国際交流と違ってとても難しい。(→協力し合って成果を出すという本来の目的は達成するのが大変)
- ・アラブ女性との意見交換会で、今まで持っていた印象が変わりました。ボランティアは、自主性が何より大切だということを痛感しました。
- ・国際的な規模で何かをしようとすることは、大変なことだと思ったが、ちょっとした意欲があれば関われることだとわかった。でもそのことがボランティアとはまだ言えないと感じた。

8. 今後アフガンボランティアの活動はどうあるのがよいと思いますか。

< 1 年生 >

- ・知識を深めながら募金などをしていく。
- ・一人一人が、自分の目標をしっかりと見据えて、様々なことを学んだり経験したりしていければよいと思う。
- ・アフガンについて調べてみる。他のボランティア活動に参加する。
- ・もっとアフガンのことを知って、校内の生徒にも理解してもらい、その上で、募金などの活動・交流をすべきだと思います。
- ・他の学校と交流を持って、情報を集める。
- ・アフガンの勉強(ダリ語、実態、文化、戦争等による心の問題 etc)。他の学校との交流。
- ・あまり「国際協力!」と、堅くは考えないで、何回か他校のボランティアやアフガンの方と交流をできたらいいと思う。

< 2 年生 >

- ・実際の目に見える活動の他に、自主的な勉強や個人的な交流などにベクトルを向けていく。
- ・何かをアフガニスタンに送る。
- ・何かある1つの目標を決めて (or グループごとに決めて) 何を目的にしているのかをはっきりさせるべきだと思う。
- ・しっかりとした目的や目標を持って活動できたらいいと思う。まだアフガンのことをよく知らないで、そこらへんを調べたい。
- ・アフガンだけにこだわらず、幅広い国際協力をすべき。
- ・数多くの有志が集まれば、もっと大きな組織ができると思うが、今のように小さな団体として活動していくのもよいと思う。
- ・自分を豊かにしていけるような活動になるといいと思います。アフガンに対して何かをするだけでなく、それについて知ったり、アフガンから影響を受けることのできる活動。
- ・この団体に参加している理由が各々違うと思うので、グループにわかれて、学習をしたい。文化祭でその学習の成果が展示できると良いと思う。
- ・個人個人で自分の興味あるテーマをしぼって勉強していくといいと思う。その結果が文化祭で発表できたらいいな、と思う。
- ・もっと勉強会みたいな(グループごとのテーマ学習でもいいけど)ことをやりたい。もっとみんなの考えを聞いてみたい。←話し合いを積極的にやってほしい。ダリ語講座でも、できたらアフガンの人とEメールとかで一年恒時的に?交流を持てるといいと思う。
- ・何らかの形でアフガンの人たちと交流をしてほしい。

< 3 年生 >

- ・もっとふれあい、関わり合いがたくさんあること。
- ・去年はあまりアフガンの方とふれあう時間も少なかったので、大学に来ている時はできる限り話を聞いたり、直接交流できればよいと思う。
- ・もちろん参加することおに意義はあると思うけれど、こちらがボランティア活動することに満足するかどうかという規模で考えるのではなくて、アフガンで本当に必要とされているものやことを現地の人に直接聞くのが大切だと思います。向こうが求めていることをこっちがやるということは無駄なことだと思うので。

9. アフガニスタン支援に関して、大学・高校にどのようなことを望みますか。

< 1 年生 >

- ・必要に応じて資金がほしい。
- ・アフガニスタンの人々とふれあう機会をもっと与えてほしい。
- ・物資の援助や募金も大切だと思うけれど、教育の面でもっと支援していくべきだと思います。
- ・大学と一連となって、活動したいです。
- ・他の学校との交流の情報。大学の国際科の先生方にいろいろな事を教えていただきたい。
- ・一人一人が何をできるか考えること。

< 2 年生 >

- ・支援につながることは分からないけれど、授業などで基本的なところからアフガニスタンやその周辺の事情を取り上げて欲しい。こういったことは中学の頃からすべきだと思うけれど。
- ・他校との情報交換などができるようになるといいなあと思います。
- ・ちまちまやらずに、大々的にやること。もっとたくさんの人に興味をもってほしいと思う。
- ・特になし。
- ・少しでもよいので支援金が欲しい。
- ・プリンターのインクと紙は現金引き換えがいいです... (to 大学)。ずっと続いて行くといいと思います (to 高校)。
- ・数回、専門の先生による講演をしていただきたい。
- ・アフガンの人をもっと身近に感じることができるようなことをしてほしい。

< 3 年生 >

- ・いろいろな国とやって生徒に普段は接することのないような国の人たちと接する機会を持たせてほしい。
- ・アフガニスタンの方とふれあえる機会をできるだけ多くもてるといいと思います。大学生に混じって活動を行うこともできれば、もっと多くのことを学べると思います。
- ・夏などに、直接アフガンに行って（高校の先生が行ったように）何が必要か実感すること。